

## 総合目次

はじめに	6
第 1 章 《第1回聞き取り 2013.5.20》	9
《概要》 生い立ち／養蚕農家の五男／戦後初の旧制中学のストライキ／受験落第／林野庁東京営林局入局／フィールド調査に没頭／調査・分析・方針策定	
第 2 章 《第2回聞き取り 2013.5.27》	31
《概要》 東京林野庁本庁勤務時代／入党／チンピラ黨員なのにレッドパーズ／高円寺漂着／高円寺クロニクルの始まり	
第 3 章 《第3回聞き取り 2013.6.3》	55
《概要》 「アカ」の共産党は地域の住民運動から摘み出される／警察監視下のストックホルムアピール署名／丸十パン前が起源・原水爆禁止署名運動	
第 4 章 《第4回聞き取り 2013.6.10》	89
《概要》 27歳で区議会議員初当選／先輩から学ぶ／大衆動員と議会＝小会派の戦い方／環状七号線拡幅対策の経験／外郭環状線計画を40年の凍結に追い込んだ青空説明会	
第 5 章 《第5回聞き取り 2013.7.31》	115
《概要》 東京ゴミ戦争／立場の大逆転・反対から推進へ／美濃部都政の与党として 正しい政策と地元の利害	
第 6 章 《第6回聞き取り 2013.8.12》	137
《概要》 国立研究機関つくば移転に伴う跡地問題／蚕糸の森公園誕生まで／新しい町づくりのあり方の模索／気象研究所跡地・機械技術研究所跡地再利用と何が違ったのか	
第 7 章 《第7回聞き取り 2013.8.19》	155
《概要》 第6回聞き取りまでの再確認／60年安保と高円寺／地域共闘／蚕糸試験場移転の特殊性／幻の丸ノ内線東高円寺駅 などなど	
第 8 章 《第8回聞き取り 2013.8.26》	185
《概要》 高円寺北口再開発 その1／保守重鎮から「密書」・都の蠢動の察知戦災復興計画の復活と住民主体の運動 ■参考記録 1993年の東京都建設局交渉 書き起こし	
第 9 章 《第9回聞き取り 2013.9.2》	221
《概要》 高円寺北口再開発 その2／杉並戦後住民運動史概観／都vs住民持久戦状態の90年代	
第 10 章 《第10回聞き取り 2013.9.30》	251
《概要》 北口再開発などあれこれ／他党派議員との関係／なぜ「週刊」高円寺になったのか？／本気で学ぶ力	
第 11 章 《第11回聞き取り 2013.10.7》	271
《概要》 議論を求めない議論＝「論破」で自己満足／理事者に信頼される必要性／共産党杉並区議員団の現状	
第 12 章 《第12回聞き取り 2013.10.21》	289
《概要》 恐らくは東京初の日照権問題／法律になかった権利を守る問題／法律に日照権が書き込まれてからの方が難しくなった交渉	
第 13 章 《第13回聞き取り 2013.11.4》	311
《概要》 警察学校移転後の跡地利用計画／広大な再開発計画／対話の中から相談にのる	
年 表	335
結びとして	350

第1章

生い立ち

1928年(昭和3年)～1948年(昭和23年)

## ● 第 1 章 ●

### 生い立ち 1928年(昭和3年)～1948年(昭和23年)

- 11 語り始めに
- 11 生い立ち 秩父郡皆野町大字金沢字金澤
  - 11 ■養蚕農家の6人兄姉の末っ子五男坊として生まれる
  - 12 ■備前長船が蔵の中に
  - 14 ■所沢の伯父について
  - 14 ■大恐慌の波 養蚕業直撃 進学できなかった兄たち
  - 15 ■二・二六事件
- 16 師範学校不合格 一浪して秩父農林へ
  - 16 ■勤労働員 北海道への援農
  - 17 ■所沢と烏山の伯父の戦争体験
    - 18 <閑話> 後に営林局に入った経緯・またも不合格の末に
    - 19 <閑話> 職業軍人だった長兄の戦後
  - 19 ■秩父での勤労働員
    - 19 ▼敗戦の予感
  - 21 ■戦後 卒業まで半年 必死のつめこみ
  - 21 ■敗戦 軍国校長排斥ストの首謀者になる 全国の旧制中学で最初のスト
    - 21 ▼秩父での共産党の復活
  - 23 ■受験落第 営林局へ
  - 23 ■1946年(昭和21年)7月 前橋 東京営林局 入局
    - 23 ▼山村に踏み入っての調査・分析
  - 24 ▼入職してから丸1年 鮫川村
  - 25 ■入職2年生の反乱 2・1ストの名残り
  - 27 ■1948年(昭和23年)7月 東京へ移動 企画課調査係
  - 28 ■入党の経緯
  - 28 ■調査係長 佐藤義弥
  - 30 ■フィールド調査 調査・分析・方針策定 後の活動の原点

聞き取り第1回 2013年5月20日

## 【第1章】生い立ち 1928年(昭和3年)～1948年(昭和23年)



### 語り始めに

父(邦義):昨日歩いていたら庭仕事している人がいてね。

「やあやあ、真々田さん。あんたの歩んだ道、1号と2号は読んでね、ちゃんととってあるんだけど、その後出ているの?」

「アレは面白い」と。「だからもう8号になっているんだよ」って言ったら「なら、それ全部ね、余部があったら欲しい」と。

あれは、赤旗の読者以外にも結構バラ撒いているから、関心持つ人がいるんだね。

私が議員になってから後のことはわかるけれども、その前、どんなことしていたかわからないじゃない。そもそもこんなでも役に立つんだなって思って。

### 生い立ち 秩父郡皆野町大字金沢字金澤

#### ■養蚕農家の6人兄妹の末っ子五男坊として 生まれる

私(弘):親父が生まれたのは昭和3年(1928年)でしょ。

その頃は秩父の家は何をやっていたの?

父(邦義):私が生まれた秩父の家はね養蚕農家で、蚕種(サンシュ)製造業。

私:お蚕さん?

父:うん。お蚕の種[タネ=卵]。繭から蛾がでるわけでしょ、蛾が交尾して種を生むわけよ。それをね、こういう丸い輪っかの中に入れて、平らにずっと卵を産みつけさせるわけ。それが1gなのよね。それが10枚あると10g。だから、今年はウチは50g分の蚕を飼うかなという、それを50枚持っていくわけよ。それに温度かけたりして虫が生まれてくるわけ。それを搔き立てて養蚕になるわけね。その蚕種製造業を経営していて、農繁期は作男さんが2人ぐらいいたね。それで、繭の生産量で百貫、百貫だから300何十kgだよ、そういう大規模養蚕をして、そして種を取って農家に分けると。それを年末に集金をするというのを秩父の家ではやっていたの。

私:商売になるということは、そういう大規模養蚕農家は少なかったわけだよ。

父:そう、秩父の郡北でウチぐらいだったんじゃないかな。

私:そんなものなの?

父:とにかく「種屋さん、種屋さん」って言われてたんだから。

私:当時の農家でいうと割と上の方にいたということ?

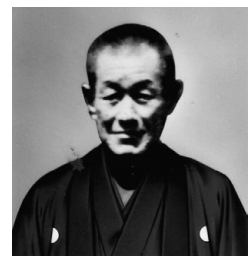
父:うん。ウチは金沢っていう200戸くらいの小さな村なんだけれども、ウチが1番なのか2番なのか3番なのか良くわからないけれども、まあ、2～3を争う資産家ではあったの。だから、金沢の小学校から皆野寄りの方が旧金沢だったんだけど、そこでは一番のお金持ちだったわけ。小学校の峠を越えて向こうに行くと持田家だとか、恐らく向こうの方が収益のある農業やっていたかもしれないね。ウチは夏は養蚕、冬は炭焼き、それで植林したり手入れしたりで大きくしてそれを売ると。だから、林業と農業と半農半林か。

私:そうすると、農業といっても主体は養蚕で、いわゆる農産物っていうのは?

父:売るほどの産物は無かった。ただね、小作が2～3あったみたいね。

私:あ、小作人がいたんだ。

父:うん。小作に出しているところ



祖父 種成



祖母 トヨ